

新世代の職業観とキャリア

— 働く 20 代・30 代の現在と将来 —

「バブル経済」崩壊以降の長期的な景気低迷のなかで、若者の就職難やフリーター層を数多く生み出し、就業の不安定性やキャリア形成の不確実性に対して危惧されている。

本研究は、若い勤労者層（主に 20 代、30 代）の就職時の意識と行動、就職後の仕事や職場（勤務先）に対する意識・経験、キャリア形成、将来の不安と展望などの特徴と相互連関をトータルに捉えようと試みたものである。

研究委員会メンバー

| | | |
|--------|---------|----------------------|
| (主 査) | 梅 澤 正 | 東京経済大学経営学部 教授 |
| (委 員) | 末 吉 武 嘉 | (財)連合総合生活開発研究所 研究員 |
| | 時 井 聰 | 淑徳大学社会学部 教授 |
| | 林 大 樹 | 一橋大学社会学部 教授 |
| (専門委員) | 岩 井 阿 礼 | 淑徳大学社会学部 専任講師 |
| | 露 木 恵美子 | 北陸先端科学技術大学院大学 博士後期課程 |
| (事務局) | 野 村 雄三郎 | (財)雇用開発センター 常務理事 |
| | 井 上 ナホミ | (財)雇用開発センター 研究調査部長 |
| | 田 島 博 実 | (財)雇用開発センター 研究調査課長 |
| | 荒 井 直 子 | (財)雇用開発センター 研究調査部 |

目 次

| | |
|-------|--------------------------------|
| 第 1 章 | 調査研究の概要と示唆 |
| 第 2 章 | 就職環境の変化と新世代の形成 |
| 第 3 章 | 就業意識の世代間および性別の相違 |
| 第 4 章 | 新世代のキャリアマインド |
| 第 5 章 | 仕事能力に関わるセルフイメージ（仕事能力自信度）の特徴と要因 |
| 第 6 章 | 新世代社員の会社と仕事に対する意識に変化はみられるのか |
| 第 7 章 | 非正社員化の進行とフリーター層の意識・行動の特徴 |
| 第 8 章 | 新世代若者の就業形態と精神的成熟 |
| 第 9 章 | インタビュー結果からみた新世代の意識と行動 |
| | 付属資料 |

調査の対象及び内容

(1) 「職業観と生活意識に関するアンケート」

調査時期 : 平成 13 年 11～12 月

調査対象 : 労働組合（産別組織）及び企業を通じて、所属する組合員又は従業員 4,382 人

回収数 : 1,691 票 (有効回収率 : 38.6%)

調査内容 : ①現在の仕事と働き方について、②就職前のことや就職活動について、③職場生活、職業経験の内容とそれに対する評価、考え方について、④キャリア形成、キャリア開発の現状と意向、⑤生活や働き方の変化について、⑥個人属性

(2) インタビュー調査

調査時期 : 平成 13 年 10 月～14 年 3 月

調査対象 : 首都圏に住む 24～34 歳の男女 12 名

調査内容 : ①プロフィール、②就職前の職業観の形成について、③就職活動を通じての職業観の形成や変化、④職場生活、職業経験の内容とそれに対する評価、考え方、⑤職業意識、企業帰属意識や仕事・組織との関わり方、将来展望、⑥生活関心とライフスタイル